

○ 農産物の市場価格が低迷する中で、果樹農家の収益性を維持し向上させるためには、消費者ニーズに応じた新品種を導入し、安定的に生産することが求められている。

○このため県オリジナル品種を中心とした有望品種について、導入を推進。現地における栽培技術の国立を早急に進め、出荷量の拡大による産地化を目指している。

○平成28年度には、県オリジナル品種の出荷量は約11tを越えた。

### 具体的な成果

### 普及指導員の活動

○ブドウ「甲斐のくろまる」の出荷量の増加  
・指導者の栽培技術が向上し、生産者への栽培技術の浸透が図られたことから、生産現場でも良品が生産された。

・出荷量が大幅に増加。

平成27年 3t →

平成28年 10.2t



○ブドウ「甲斐のくろまる」の栽培管理手引きの見直し

・果樹試験場、JA他と連携し、調査結果等を踏まえて、栽培管理の手引きを見直し、講習会等で活用したり、栽培者へ配布した。

○モモ「夢みずき」の果実品質等の把握

・JA営農指導と連携し、現地調査ほ場における生育状況や果実品質を把握した。

・いびつ果は等級に影響を及ぼす程ではないことが確認出来た。また、糖度が高く、品質の良さを確認出来た。



○ハウスシャインマスカットの栽培基準の作成

・事例調査等から普通加温のモデル加温体系の作成を支援。

・加温体系を生産者に配布。  
(体系に基づく栽培状況を調査中)



平成28年度

○ブドウ「甲斐のくろまる」の生産安定に向けた栽培技術の普及定着

・実証展示ほ場の設置

・栽培技術検討会の開催

・栽培講習会の開催支援

・オリジナル品種ブランド

化推進会議への参画



○モモ「夢みずき」現地ほ場における果実品質等の把握

・現地調査ほ場の設置

・果実調査

○「シャインマスカット」のモデル加温体系作成支援

・現地事例調査

・検討会の開催及びモデル体系の作成

【活動をすすめるための長期計画】

平成28～30年度

■「甲斐のくろまる」栽培技術の検討

■「夢みずき」現地品質の把握

■管理技術研修会の開催

■次世代のオリジナル品種候補の検討

■シャインマスカット加温体系の検討(事例調査)

普及指導員(農業革新支援専門員)

だからできたこと

・連携体制を構築した取り組みを行い、専門技術を活かし優良事例を掴む中で、地域に適した栽培方法を定着させることが可能であった。

## 山梨県

### タイトル 果樹優良品種の導入による産地ブランドの確立

活動期間：平成28年～32年

#### 1 取組の背景

市場価格が低迷する中、収益性の維持向上を図るためには、消費者ニーズに対応した品種を導入し、安定的に生産することが求められています。このため、県オリジナル品種や新たな有望品種の導入に向けて栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進する必要があります。また、ブドウ「シャインマスカット」は、全国的に栽培が増加し、産地間競争の激化が予想されるため、高品質果実生産が必須とされています。更に、「シャインマスカット」については、市場ニーズに対応した有利販売に向け、ハウス栽培技術の確立も望まれています。

#### 2 活動内容（詳細）

農業革新支援スタッフ（農業革新支援専門員）として、本課題を重点プロジェクトに位置付け、各産地を管轄する地域普及センター、試験研究部門、JA、行政各課等と連携しながら取り組みを行いました。

##### (1) ブドウ「甲斐のくろまる（県オリジナル品種）」の生産安定に向けた栽培技術の普及定着

生産安定に向けて現地実証圃を設け、栽培者に対しては講習会等の開催支援を行い、「平成28年度『甲斐のくろまる』栽培管理の手引き」に示された栽培技術の定着を図りました。また、JA営農指導員及び普及指導員に対し、栽培技術検討会を開催し、栽培管理のポイントについて意見交換により、栽培技術確立に向けた検討を進めました(写真1)。

- ・実証展示圃設置：4ヶ所（JAフルーツやまなし1箇所、JAふえふき1箇所、JA甲府市1箇所、JA梨北1箇所）
- ・指導者を対象とした栽培技術検討会等の開催：5回（5～2月）
- ・栽培講習会等の開催支援：13回（4地域）
- ・山梨県オリジナル品種ブランド化推進会議への参画：9回（4～3月）

##### (2) モモ「夢みずき県（県オリジナル品種）」現地圃場における果実品質等の把握

オリジナル品種であるモモ「夢みずき」は大玉で着色や食味が優れることから、モモ生産者の関心が極めて高く、今後急速に栽培面積が拡大することが予想されています。しかし、品種発表時から正常な果実と比較してややいびつな形状の果実が混入することが明らかにされているため、現地調査圃場を設置して果実品質等の把握を行いました。

- ・現地調査圃場設置：4ヶ所（JAフルーツやまなし2ヶ所、JAふえふき1ヶ所、JAこま野1ヶ所）

- ・現地調査回数：15回（4ヶ所）

### (3) ブドウ「シャインマスカット」のモデル加温体系作成支援

一般的な露地栽培においては、栽培上大きな問題は発生していませんが、ハウス栽培においては、生理障害等の発生頻度が高いため、各地域普及センター、試験研究部門、JA等と連携しモデル加温体系の作成支援を行いました。

## 3 具体的な成果（詳細）

### (1) ブドウ「甲斐のくろまる」の出荷量の増加

指導者のスキルが高まり、生産者への栽培技術の浸透が図られたことから、生産現場でも優良果房が生産され（写真2）、県下の「甲斐のくろまる」の出荷量が大幅に増加しました。

平成28年度出荷量：10.2t（対出荷計画164%、対前年比262%）



写真1 指導者を対象とした検討会



写真2 現地生産果房の状況

### (2) ブドウ「甲斐のくろまる」の栽培管理の手引きの見直し

果樹試験場の育種部並びに栽培部、JA、行政各課等と連携し、今年度の実証圃場での調査結果や果樹試験場内での試験結果をふまえて、「甲斐のくろまる」栽培管理の手引きの見直しを行い栽培者へ配付しました。

### (3) モモ「夢みずき」の果実品質等の調査・把握

JA等と連携し、現地調査圃場において生育状況の確認と果実品質調査を実施したところ、生育については特段問題はなく、当初発生が心配されていたいびつな形状の果実の混入については、等級に影響を及ぼすほどの変形果は認められませんでした。

むしろ、糖度が14° Brix前後に達する等、高品質であったことから生産者の栽培意欲が更に高まりました。

### (4) ハウスシャインマスカット栽培基準の作成

「シャインマスカット」について、普通加温のモデル加温体系を含めて栽培基準の作成を支援し作成した栽培基準を生産者に配布しました。

#### 4 農家等からの評価・コメント（オリジナル品種ブランド化推進会議 事務局〇氏）

当協議会では、果樹産地の発展に資するため優良品種（オリジナル品種）の改植を進め、高品質果実の生産及びブランド化の促進によって果樹栽培農家の経営安定を目指しております。

オリジナル品種については、栽培技術の確立と統一が必須であるため、重点プロジェクト課題との連携した活動により、優良品種（オリジナル品種）の出荷量の増加及び品質の向上が年々見られています。

#### 5 普及指導員等のコメント（果樹試験場・主幹、普及員指導員 曾根英一）

果樹農家の収益性の向上を図るには、消費者ニーズに対応した品種をいち早く導入し安定的に生産することが必要となっています。県オリジナル品種の導入が進む中で、普及現場では、現地での栽培技術の確立を早急に図り、産地化を促進することが求められています。

課題として重点プロジェクトに位置付け、農業革新支援専門員が中心となり地域普及センター、試験研究部門、JA等と連携した活動によって産地ブランドの確立に向けた取り組みにつながっています。

#### 6 現状・今後の展開等

県オリジナル品種や新たな有望品種の栽培技術の確立、生産現場での生産安定、産地化に向けて引き続き関係機関と連携しながら取り組みます。

また、ブドウ「シャインマスカット」についても、出荷期間の拡大を視野にハウス栽培の安定生産に向け、生産現場の状況を踏まえつつ引き続き関係機関と連携しながら栽培基準の検討に取り組みます。